

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 工業 科目 自動車工学

教科：工業 科目：自動車工学 単位数：3 単位

対象学年組：第1学年 2組～ 組

教科担当者：

使用教科書：（自動車工学1・2（実教出版））

教科 工業 の目標：

【知識及び技能】工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 自動車工学 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自動車および自動車を構成する各部分の基本的な構造・機能に関する知識および観察・実習の技能を習得し、実際に活用できる能力と態度を身につける。	自動車および自動車を構成する各部分の基本的な構造・機能に関する知識・技術に課題等を見つけ出し、自ら思考・判断し、創意工夫して課題解決する能力を身につける。	自動車および自動車を構成する各部分の基本的な構造・機能に関する知識や技術に関心を持ち、意欲的に探究するとともに、学びに向かう力を身につける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第4章 動力伝達装置 エンジンで発生した動力を有効に駆動輪に伝達する動力伝達装置の各要素のしくみと働きについて、「自動車工学1」の第2章で指導した原理を導入しながら理解させる。	第4章 動力伝達装置 1節 クラッチ 2節 トランスミッション 3節 その他の動力伝達装置	【知識・技能】 各種の動力伝達装置についての基本的な知識を身につけ、その動作原理・特徴および動力伝達経路を理解し、実習などで観察し、実際に活用できる能力と態度が身についている。 【思考・判断・表現】 動力伝達装置の構造・機能および変速比・減速比などについて、自ら思考を深め、最適な数値処理を活用し、適切な判断に基づいて創意工夫しながら数値処理を行う能力が身についている。 【主体的に学習に取り組む態度】 自動車用エンジンで発生した動力を有効に駆動輪に伝達する動力伝達装置の構造・作用について関心を持ち、意欲的に探究するとともに、主体的に学習に取り組む態度が身についている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	第4章 動力伝達装置	第4章 動力伝達装置 3節 その他の動力伝達装置	上に同じ	○	○	○	2
	第5章 懸架装置・走行装置・ステアリング装置 自動車が自由に安定した走行をするために必要な懸架装置・走行装置・ステアリング装置の構造と役割について、「自動車工学1」の第2章で指導した原理を導入しながら理解させる。	第5章 懸架装置・走行装置・ステアリング装置 1節 懸架装置 2節 走行装置 3節 ステアリング装置	【知識・技能】 懸架装置、走行装置およびステアリング装置についての基本的な知識を身につけ、その動作原理・特徴を理解し、実習などで観察し、実際に活用できる能力と態度が身についている。 【思考・判断・表現】 自動車が自由に安定した走行をするために必要な懸架装置、走行装置およびステアリング装置の構造・作用・特徴について、自ら思考を深める能力が身についている。 【主体的に学習に取り組む態度】 自動車が自由に安定した走行をするために必要な懸架装置、走行装置およびステアリング装置の構造・作用について関心を持ち、意欲的に探究するとともに、主体的に学習に取り組む態度が身についている。	○	○	○	14
2 学 期	第6章 ブレーキ装置 自動車を減速させたり停止させたりするには、運動エネルギーを吸収させる装置が必要であることを確認させる。とくに、ブレーキ装置は重要保安部品でもあるので、その構造と働きについて十分に理解させる。	第6章 ブレーキ装置 1節 ブレーキ装置の役割 2節 ブレーキ装置の構造と作用	【知識・技能】 ブレーキ作動時の諸現象および関係する法規と関連づけて理解し、自動車の安全確保に関する知識等を習得し、実習などで観察し、実際に活用できる能力と態度が身についている。 【思考・判断・表現】 自動車の走行を減速・停止させるためのブレーキ装置と制動時の安定性を向上させるための装置などについて、自ら思考を深める能力が身についている。 【主体的に学習に取り組む態度】 各種ブレーキ装置の構造・作用について関心を持ち、意欲的に探究するとともに、主体的に学習に取り組む態度が身についている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	第6章 ブレーキ装置	第6章 ブレーキ装置 2節 ブレーキ装置の構造と作用	上に同じ	○	○	○	4
	第7章 シャン・ボデー エンジン、変速装置、駆動装置、懸架装置などを支え、安全で乗り心地のよい車にするため、シャン・ボデーが必要であることを認識させる。	第7章 シャン・ボデー 1節 シャン 2節 ボデー	【知識・技能】 ボデー・フレームの構造と事故の軽減との関連について理解し、自動車の安全対策と安全装置に関する知識と技術を習得し、実際に活用できる能力と態度が身についている。 【思考・判断・表現】 シャン・ボデーについて理解し、予防安全と衝突安全について、自ら思考を深める能力が身についている。 【主体的に学習に取り組む態度】 乗用車では、ボデーとフレームが一体になった構造のものが多く用いられている。ボデーの形式や構造、フレームの骨組みおよび自動車の安全について関心を持ち、意欲的に探究するとともに、主体的に学習に取り組む態度が身についている。	○	○	○	4
2 学 期	第8章 走行と性能 自動車が快適に走行するための性能として、どのようなものが考えられるかを学び、走行状態と性能の関係について概要を理解させる。	第8章 走行と性能 1節 走行抵抗と駆動力 2節 直線走行性能 3節 コーナリング性能 4節 乗り心地性能	【知識・技能】 走行時の諸現象および関係する法規との関連について理解し、グラフや表を読み取り、自動車の性能に関する知識と技術を習得し、実際に活用できる能力と態度が身についている。 【思考・判断・表現】 走行時の性能特性ならびに性能試験の種類等について理解し、自動車の性能に関する最適な数値処理を活用し、適切な判断に基づいて創意工夫しながら数値処理を行う能力が身についている。 【主体的に学習に取り組む態度】 自動車の持っている性能と走行が、どのようにかわっているのかについて関心を持ち、意欲的に探究するとともに、主体的に学習に取り組む態度が身についている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	第8章 走行と性能	第8章 走行と性能 4節 乗り心地性能	上に同じ	○	○	○	2

